

たか ゆ り かつひら やす ふくとよ き  
**「高百合」、「勝平安」、「福豊喜」**  
**産子の肥育時の特徴及び枝肉成績**

福島県農業総合センター 畜産研究所肉畜科

**1 部門名**

畜産－肉用牛－畜産ほ育・育成

**2 担当者**

渡邊鋼一・古閑文哉・石川雄治・内田守譜・鈴木庄一・壁谷昌彦・荻野隆明・佐藤亮一

**3 要旨**

特色ある力強い「福島牛」の産地形成には、本県産種雄牛の作出が不可欠である。その利活用推進のために現場後代検定牛産子の肥育及び枝肉特性等の情報を収集、分析したところ、「高百合」、「勝平安」、「福豊喜」が種雄牛として優秀である。

(1) 「高百合（父：百合茂、母の父：安福栄、母の母の父：北国7の8）」産子

非常に高い発育能力を有する。体型は、体積感があり、後躯に優れた産子が多く、肥育初期から終了時まで高い増体能力を示した。枝肉成績は、去勢において上物率が100%、枝肉重量平均が520.4kg、BMS9.2と質、量ともに非常に優れた成績だった（表1）。

(2) 「勝平安（父：北平安、母の父：平茂勝、母の母の父：安平）」産子

去勢においては、肥育ステージが進むに従い胸囲、腹囲、胸深の数値が高くなり、良好な発育であった。枝肉成績は、上物率が全体の平均で80%を超え、平均値でロース芯が60cm<sup>2</sup>、バラ厚が8.4cmであり、去勢、雌とともに枝肉のつくりが良い産子が多かった。（表1）。

(3) 「福豊喜（父：安糸福、母の父：平茂勝、母の母の父：紋次郎）」産子

十分な体高値があり、発育が良好であった。「高百合」「勝平安」各産子と比較して、体重、胸囲及び腹囲の数値が若干低く推移したものの、但馬系種雄牛として十分な枝肉重量が期待できる。枝肉成績は、ロース芯がやや小さかったが、去勢で上物率100%、雌では85%を超え、安定した脂肪交雑能力をもっていた（表1）。

**4 成果を得た課題名**

表1 各種雄牛の枝肉成績

種雄牛名	性	頭数	枝肉重量 (kg)	ロース芯 (cm <sup>2</sup> )	バラ厚 (cm)	皮下脂肪 (cm)	枝肉歩留 (%)	BMSNo.	上物率 (%)
高百合	去勢	10	520.4	65.8	8.4	2.1	75.2	9.2	100
	雌	5	474.0	56.0	8.2	2.1	74.3	6.8	80.0
	平均		504.9	62.5	8.3	2.1	74.9	8.4	93.3
勝平安	去勢	10	512.2	63.6	8.8	2.3	75.1	7.6	80.0
	雌	12	456.7	60.8	8.1	2.6	74.7	7.0	83.3
	平均		481.9	62.0	8.4	2.4	74.9	7.3	81.8
福豊喜	去勢	8	510.1	53.3	8.6	2.9	73.1	7.9	100
	雌	7	457.8	54.4	7.6	3.0	73.1	6.7	85.7
	平均		485.7	53.8	8.1	3.0	73.1	7.3	93.3
(参考)※ 広域後代検定 種雄牛(1,315頭)	去勢・雌 の平均	91,566	453.3	55.3	7.6	—	—	5.7	—

※ 独立行政法人家畜改良センター「平成25年度広域後代検定評価方法について」から引用

(1) 研究期間 平成23年度～26年度

(2) 研究課題名 「ブランド福島牛」を確立する本県産黒毛和種種雄牛の作出(現場後代検定牛の肥育及び枝肉特性の解明)

(3) 参考となる成果の区分 指導参考

**5 主な参考文献・資料** なし